

## 銚子市総合計画審議会（第3回） 会議概要

1 日 時 平成30年10月19日（金）13:30～15:50

2 場 所 銚子市勤労コミュニティセンター2階ホール

### 3 出席者

○委員 14名出席

関谷 昇 委員	出	柏熊 聖子 委員	出	木村 栄宏 委員	出
高木 益伸 委員	出	河崎 利洋 委員	出	佐藤 直子 委員	出
吉川 リアン委員	欠	野口 光男 委員	欠	石上 藤吾 委員	出
辻 勝美 委員	出	宮内 勝雄 委員	出	宮内 利明 委員	欠
宮崎 光子 委員	出	野平 泰彦 委員	出	伊東 好雄 委員	出
大野 慶周 委員	欠	石毛 克典 委員	出	飯塚 禎司 委員	出

○銚子市

越川市長、島田副市長

宮澤企画財政課長、越川子育て支援課長、伊藤高齢者福祉課長、笹本観光商工課長  
浪川水産課長、飯島農産課長、柴社会教育課長、佐久間学校教育課主幹、  
井上学校教育室長、山口総務課長、椎名都市整備課長、安藤秘書広報課長  
飯森企画室長、垣沼主査、大坂主任主事、平野主任主事

### 4 会議内容

#### (1) 開会

#### (2) 市長挨拶

- ・ 前回の審議会では基本構想部分についてご審議いただいたが、今回は基本計画のうちライフステージの分野についてご審議をいただきたい。
- ・ 今回の総合計画の最大のテーマは、前回もお話ししたとおり「様々なちからが握手をする、つながる」ということ。「つながる」をキーワードとしてまちづくりを進めていきたい。
- ・ 先日宮原地区で座談会を開催したが、その際住民から「地区の良いところ」「困っていること」「自分たちでできること」について意見を出してもらった。
- ・ 「自分たちでできること」として、「道路のカーブミラーを磨く」「ラジオ体操にできるだけ多くの人に参加する」など多くの意見が出た。「市民が必要なこと」と「市民ができること」を結び付けていくことで、市民によるまちづくりを進めることができる。市民の主体性を引き出していくこと、市民がやりたいと考えていることができる環境をつくっていくことが行政の役割だと考えている。

### (3) 議題

#### 1) 銚子市総合計画（基本計画）案について

##### ● 関谷会長

- ・ 今回の総合計画の大きな特徴は、各種取組をライフステージ別・コミュニティ別という視点で分類していることと、行政がやることに加え市民ができること、市民と行政の協働でできることを記載していることの2つ。様々な「ちから」を育て、つないで、将来への誘いになるようなものとしていきたい。
- ・ 基本計画に関する資料の内容について、事務局から説明をお願いします。

##### ○ 事務局

- ・ 基本計画案の説明の前に、前回会議で審議いただいた基本構想部分に関する作業の進捗状況と、基本計画の全体像について説明する。
- ・ 基本構想については、前回の会議で審議いただき、多くのご意見等をいただいた。現在はその意見、指摘を踏まえ、関係部署と協議を重ね、修正版の作成を進めているところ。次回の会議で基本構想と基本計画を含めた全体像がわかる資料を提示させていただく。
- ・ 基本計画は、基本構想に掲げる将来像を実現するための基本的な施策を整理したもの。今回の総合計画では、市民目線の総合計画ということで、ライフステージの視点、コミュニティの視点、それから行財政運営という区分で、施策を分類している。
- ・ また、それぞれの項目において「市民・地域ができること」「行政がすべきこと」「協働でできること」を可能な限り具体的に記載している。単なる行政計画ということではなく、誰がどのように役割を果たしていくべきか、いかなる連携を作り出していくべきかを考える契機として、この計画が活用されることを目指している。
- ・ 分野ごとに設定する成果指標に関しては現在作業中であり、次回会議で提示したい。

※以降、ライフステージ部分に属する13の項目について、担当部署から説明を行う。

##### ● 関谷会長

- ・ ライフステージ部分について説明をしてもらった。どのようなことでもよいので意見をお願いしたい。

##### ◆ 宮崎委員

- ・ スポーツ振興の施策にある「スポーツ施設の環境整備」（P19）に関してだが、現在の体育館は雨漏りする箇所があるなど、整備が十分になされているとはいえない。今後どのように対応していく予定か。

##### ○ 柴社会教育課長

- ・ 体育館に関しては屋根の修繕を進めているところであり、当面は最低限の修繕対応を行っていく。しかしいつまでもこのままというわけにはいかないで、中長期的にはホール機能を併せ持つ統合施設の設置などを検討していきたいと考えている。

#### ◆柏熊委員

- ・学校教育の施策にある「学校規模の適正化」(P12)に関してだが、学校の再編問題は急務だと考えられる。
- ・「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の3つを育むためにはスケールメリットが重要である。各学年が1学級でクラス替えができないと多くの問題が生じる。また2つの中学校の野球部が合同で活動を行っているなど、部活動でも支障が生じている。現状で再編計画がどこまで進んでいるのか。

#### ○佐久間学校教育課主幹

- ・中学校の再編に関しては、西部地区の3つの中学校を統合し、2021年に銚子西中学校として開校することが決定し、現在その準備を進めているところ。東部地区については、千葉県による津波浸水想定区域の提示の遅延により検討が遅れているが、現在の銚子中学校の立地で問題ないことが明確になれば、そこへ2025年に東部地区の統合中学校として開校する予定となっている。
- ・小学校については、中学校の再編にめどが立ち次第進めていくことになっていたが、人口推計で今後の子どもの数の減少がはっきりしているため、今年度から検討を始めているところである。

#### ◆柏熊委員

- ・同じく学校教育の「協働でできること」として「醤油造り体験学習の実施」(P13)とあるが、銚子市といえば第1次産業が盛んである。農業体験なども組み入れるべきではないか。

#### ○井上学校教育室長

- ・醤油醸造業は銚子の産業の中心的位置づけにあり、体験学習は小4の社会科の授業に組み込んでいる。農業体験については現状では授業に組み入れていないが、今後検討していきたい。

#### ●関谷会長

- ・柏熊委員の指摘のとおり、学校の統廃合による規模の適正化は、子どもが周囲と交流しながら育っていくという観点から重要だと考えられる。
- ・農業体験についても子どもが地域の活動に参加するという点で有意義であり、「今後10年間でできること」という考え方で、検討していただきたい。

#### ◆佐藤委員

- ・1つ1つの取組をみれば「これだけのことができればいいな」と感じるが、その前に総合計画の全体像、市をどうしていきたいのかが明確になっていることが重要と考える。
- ・「活性化」という言葉が多く出てくるが、活性化は「にぎやかなこと」だけでなく「経済的に潤っていること」も含めて考える必要がある。「活性化」という表現を用

いるにあたっては、そうした視点が重要。

#### ○越川市長

- ・活性化は「人を元気にする」「外貨を稼ぐ」「地域のつながりを強くする」など、様々な意味を持っている。何の活性化かがわかるように、想いが伝わるように表現に工夫を施していきたい。

#### ◆佐藤委員

- ・取組の成果を測る物差しとして成果指標の持つ意味は大きい。特にライフステージの「生まれる・育つ」と「学ぶ」の幼児期から青年期にかけての指標の重要性は高く、実情に合わせてスピード感を持って設定していくべき。
- ・子育て支援の説明の中で「現状を維持していく施策」と「充実していく施策」があったが、それぞれが見える形になっていけばわかりやすくなると感じた。

#### ○宮澤企画財政課長

- ・成果指標に関しては、意見を踏まえて次回に提示させていただく。

#### ●関谷会長

- ・指標については、次回の審議会で案が提示されるので、それをもとに議論していきたい。また、推進体制に関しては今のところ触れられていないが、これも次回検討していきたい。
- ・行政がやることは「国や県の制度に基づき義務的に行うこと」と「市独自で創意工夫して行うこと」の2種類に分けられる。両者が区分できるような見せ方ができればわかりやすくなるかもしれない。

#### ○事務局

- ・推進していくものと充実していくものの区分など、表示の手法に関しては、強調する部分に下線を付すなどの工夫を行っていきたい。

#### ◆佐藤委員

- ・観光分野では、昔と異なる今の観光業のあり方を考えていく必要がある。「外国人観光客の誘致促進」(P39)とあるが、近年は団体ではなく個人の外国人が特色ある観光地に行く傾向がある。対象者がどういう観光をしたいのかを踏まえて行動していくことが重要となる。
- ・「起業家の育成」に関しては、これまでずっと推進してきたはずである。推進しても成果が上がっていない原因をよく見ていく必要がある。例えば補助金を出すにしても対象先を十分に吟味し、起業がうまくいきそうな先を対象にするなどの取組を強化していくべき。

#### ○笹本観光商工課長

- ・観光に関しては、現状では確かに地域資源を活用しきれていない面がある。施策と

して「何度も訪れたいくなる魅力的な観光地づくり」(P38)を掲げているが、抽象的な表現については修正していきたい。ただし財政との兼ね合いもあり、できることは限られてくると考えられる。

- ・補助金に関しては空き店舗の件だと推察する。今回の基本計画では具体的な補助金としては掲載していないが、外部資本の市内への導入は推進していく予定であり、どのような形で表現できるか検討したい。

#### ◆石上委員

- ・提案だが、今回の総合計画をホームページ等に載せる際に PDF ではなく http 版などにし、容易にアクセスでき双方向で書き込みができるような形式にしたらどうか。そうすれば、検索された場合にキーワードが引っかかってくる。例えば「洋上風力」の検索で銚子の取組が閲覧されれば、そこからビジネスチャンスが生まれてくるかもしれない。

#### ○宮澤企画財政課長

- ・想定していなかったが、できる範囲で対応していきたい。

#### ◆木村委員

- ・観光振興の箇所で「ターゲットを絞る」(P36)との表現があったが、的確な考え方だと感じた。ただ、なかなか書きづらい面もあるかと思うが、ターゲットとしてどういう層を狙うのかについての具体的な記載がない。
- ・次回審議会での検討範囲になってしまうが、国際交流の箇所では「台湾などとの交流」(P93)などの具体的なターゲットの記載があり、観光分野と絡めて表現していても良いかと考える。
- ・子育て支援に関して、「ひとり親家庭への自立支援」(P6)という施策があるが、「シングルマザーへの施策が充実している」という理由で、そのまちに移住してくるひとり親世帯があるという話を聞いた。そうしたニーズがある中で、こうした施策が入っていることは良いことだと考える。
- ・優先順位の設定は重要である。子育て支援の箇所として8つの施策が並んでいるが、「この中でどれを優先的に行うかを知りたい」と考える市民がいるのではないか。

#### ○越川市長

- ・各項目では相互にリンクする部分がある。例えば観光施策のあるキーワードをクリックすると関連施策として国際交流にも飛ぶといった工夫ができないか検討してみたい。

#### ○事務局

- ・優先順位の設定に関しては、前回審議会でも指摘があった。総合計画はすべての分野を対象とするものであるため、網羅的という印象を与えてしまう傾向があるかもしれない。
- ・そうした中で、今後10年間で優先して取り組む施策については、基本構想に掲げる

「銚子元気プロジェクト」がそれに該当する。基本計画の施策レベルでは、例えば子育て支援では「1. 相談体制の充実」（P6）に【元気プロジェクト】と記載しており、以降の施策においても同様の記載をしている。

#### ◆宮内（勝）委員

- ・農業振興の課題として、「収益力を高め・・・大規模化、省力化などの能動的な取組が求められます。」（P30）とあるが、「協働でできること」の欄にそのための取組の記載がない。課題に対応する施策が必要と考えるがいかがか。

#### ○飯島農産課長

- ・関係部署と相談のうえ、内容を検討する。

#### ●関谷会長

- ・一つのケーススタディとして、例えば「困難を抱えた子どもたち」への対応は「子育て支援」「青少年育成」「地域福祉」「社会保障」など、複数の項目にまたがって対応が必要になると想定される。支援が誰によって、どんな形で行われていくのか、計画の中で表現されていることが望ましい。
- ・子育て支援での施策の中では「1. 相談体制の充実」がこれに該当すると考えられるが、親からの相談・子どもからの相談にそれぞれどのように対応するのか、また行政に相談に行けない場合どこがカバーするのかといったことが問われてくる。
- ・松戸市でこうした分野の検討に関わっているが、この問題に関して保護者への支援が圧倒的に不足しており、保護者が問題を抱え込んでしまっていることが指摘されている。また経済的には困っていなくても両親が共働きで、子どものケアが十分に行われていない家庭があることも問題として指摘されている。
- ・香川県では美容院の組織との連携の下で、母親が美容院に来た際に「何かあったらここに相談して」と窓口を紹介するようにしているという事例がある。こういう民間と連携した活動を膨らませていくことが重要と考える。
- ・ケーススタディとして考えてみたいが、銚子市では困難を抱えた子どもたちへの対応として、どのようなことを行っているか。

#### ○越川子育て支援課長

- ・困難の内容は多岐にわたるためケースバイケースだと考えられるが、銚子市では今年の4月にそうした対応を行うための「すくサポ」という相談窓口を設置し、その充実を図っている。
- ・保護者からの相談を受け付けるだけでなく、地域からの情報を得て現地調査を行い、そこから相談に結び付けていくなどの流れも想定している。現在はまだ従来の相談対象者中心の活動にとどまっているが、今後幅広い層を対象に相談を受け付けていきたいと考えている。

## ○越川市長

- ・ 困難を抱えた子どもの件は切実な問題だと認識している。平成 26 年に豊里台の県営住宅で傷ましい事件があったが、この背景にも対象者の生活困窮があった。
- ・ 市としては相談窓口を設置しているが、その存在を知らない市民も多く今後も徹底して周知していく必要がある。また知っていても行政の窓口は敷居が高いと感じている市民も少なくない。そのため市の方から出向いて相談を聞くアウトリーチという手法も推進しているところ。

## ◆佐藤委員

- ・ 「すくサポ」は基本的に市民の側から相談にくるのを行政が待っている場所。相談に行くことすらできない人もいる。
- ・ 民間の活動だけでは限界があり、行政も包括支援センターのあり方や、市民からの相談に対するワンストップ体制を構築するためにはどうするかなど、検討していく必要がある。

## ●関谷会長

- ・ 問題を抱え込んでいる側が引きこもってしまうことが大きな問題。アウトリーチでどこまで現場に入っていけるかが問われてくる。
- ・ こうした場合には、民間と行政が連携した形でしっかりと推進体制を構築していくことが必要になる。

## ○越川子育て支援課長

- ・ 補足するが、「すくサポ」は訪問活動も行っている。児童相談所、保健所、警察、旭中央病院などとチームを組んで対応している。

## ◆高木委員

- ・ 個々の施策をみて、優等生的な施策が並んでいるが、特徴・強みがないように感じられる。「子どもへの医療費助成」などはどこの自治体でもやっているもの。「銚子はこれをやっていくんだ」という他市からすごいと思われるものを、+αとして組み込んでもらいたい。
- ・ 企業誘致については「銚子市に来たらどのようなメリットがあるか」という企業側の視点を踏まえて施策をつくっていく必要がある。

## ○越川市長

- ・ 特徴的な施策を載せるべき、という考え方はその通りだと思う。ただ今回の総合計画の大きなセールスポイントは「市民ができること」「行政がすべきこと」「協働でできること」の3つを記載していること。
- ・ このうち、「協働」の取組は銚子ジオパークの取組に代表されるように、銚子市の特筆すべき施策、大きな特徴だと考えている。

○笹本課長

- ・企業誘致については、地域資源を活用して推進していくということしか記載していない。本市は工業用地がなく、産業用に活用できる公共財産も少ない。こうした厳しい条件のもとで、今後10年間でどのようなことができるか、再度考えてみたい。

◆高木委員

- ・都市ビジョンについて、本日提示された「握手～つながるまちづくりの力～」という形ならわかりやすいが、前回提示された「握手」を「つながる」と読ませる形には違和感を覚える。

○越川市長

- ・本日示した「握手～つながるまちづくりの力～」を都市ビジョンとさせていただきたい。

◆木村委員

- ・AIやIoTを活用した取組についても、計画のどこかに記載してほしい。

○越川市長

- ・時代はそういった方向に進んでいる。ご指摘のように対応していきたい。

◆河崎委員

- ・基本計画の内容がやや具体性に欠けているため、理解しづらい部分がある。
- ・例えば観光振興の箇所、「外国人宿泊者数が増えている」(P36)とあるが、その原因は何なのかを考え、それを踏まえて外国人誘致をより推進していくための具体策を掲載すべき。
- ・また、結果がわかる数値的なデータが掲載されれば、わかりやすさが増すと思う。

○宮澤企画財政課長

- ・本日提示しているのは基本計画だが、その下に基本計画に基づいて行う事業を定める実施計画がある。基本計画は、やや具体性に欠けるようにみえるかもしれないが、実施計画でより具体的な取組について記載していく。
- ・現状では実施計画の進捗状況は公表してはいないが、今後は「何ができたか」を毎年市民に公表していきたい。

◆河崎委員

- ・1人ひとりの市民がまちづくりに参加することを促すための仕組みづくりが重要。参加しやすいようにしていくことが行政の役割だと考える。

○越川市長

- ・「これまで行政が行ってきたことを市民に丸投げする」ということでは決してない。市民に「これだったら自分たちでもできるね」と考えてもらえるように誘導してい



く。あくまで市民が自主的に行動してもらえそうな環境をつくっていくのが行政の役割だと認識している。

◆辻委員

- ・観光客誘致のツールとして、銚子の水産物や農産物を使った特色ある「食」をテーマとして検討してはどうか。単発のイベントだけではなく、宿泊客をターゲットとした観光資源として生かす方策を検討すべきと考える。

○笹本観光商工課長

- ・漁協やJ Aとも連携しながら、どんなことができるか検討したい。

◆宮崎委員

- ・銚子を訪れる観光客から「銚子は食べ物が高い」「せっかく銚子に来たのに地元の水産物が提供されない」といった話をよく聞く。また「正月に宿泊した際に法外の料金であったため、もう二度と来たくない」という声もあった。観光客がまた訪れたいと思うような魅力ある観光地にしてほしい。

○笹本観光商工課長

- ・「価格が高い」という点に関しては、この場で議論すべきことではないと思うが、観光事業者のおもてなしに関する話であり、関係者と相談していきたい。

◆柏熊委員

- ・基本計画の中で「支援」という言葉をよく使っているが、支援には財政的支援、人的支援など様々なものがある。意味が広範囲にわたるので、支援の内容を具体的に記載した方が読む側にわかりやすいと思う。

●関谷会長

- ・先ほど意見があった「活性化」も含めて、表現の仕方は言葉の中身がわかるようにしてもらいたい。

◆佐藤委員

- ・昔の銚子はPRをしなくても観光客が来る観光地であったが今は違う。観光事業者の意識を変えていく必要がある。
- ・「銚子の稼ぐ力は何なのか」「何によって銚子を活性化させていくのか」という発想が重要。地方都市として今後銚子市が生き残っていくために「どの産業で銚子を食べさせていくのか」というところまで踏み込んでいく必要があるのではないかと考える。それが観光なのか、漁業なのか、農業なのか。優先順位をつけて、決断しないとけない時期に来ていると考える。

### ○越川市長

- ・銚子の産業はすべて実力がある。「どの産業を」ということでなく、それぞれの強みを磨き、民間と行政が一緒になって取り組んでいきたい。

### ◆佐藤委員

- ・銚子では稼げないので市外に出ていくという事例も多い。事業を行っている本人が潤わなければ、満足できない。
- ・「銚子ではこの産業で食べていける」と明確にわかるように、施策にも優先順位をつけていくべきである。

### ●関谷会長

- ・難しい問題ではあるが、銚子の観光、銚子の漁業、銚子の農業、どれも売りにできるものがあるはず。それに $+\alpha$ を加えて、どんなことができるかを考えていくべき。
- ・それぞれの産業が顧客に対してどういうものを提供できるか、どういうストーリーを提供できるかが重要となる。例えば観光では、外国人観光客、銚子市を含む4市の日本遺産を訪れる人、観光バスツアーで来る人、それぞれニーズは異なっており、個々に対応するストーリーづくり、戦略づくりが必要となる。

### ◆宮崎委員

- ・銚子市の財政が厳しいとの話だが、10年後には裕福なまちになるのか。将来的に夢が持てるようなまちになっていくのか。

### ◆石上委員

- ・私は夢が持てるまちになると思う。人口の減少は細胞全体が縮んでいくということだが、一つひとつの細胞を大きくしていく努力が必要である。そうすることにより一つひとつの細胞は必ず豊かになっていくものと思う。

### ○越川市長

- ・豊かさとしては、市民が豊かになることと市の財政が豊かになることの両面がある。総合計画は市民が豊かになるために作成するものだが、その裏付けとして市の財政が豊かであることも必要である。
- ・市の取組をスクラップ&ビルドで進めていく。市としてやるべきことがある一方で、財政的な制約の中でやめなければならないこともある。行革も引き続きしっかりと取り組んでいかなければならない。

### ●関谷会長

- ・本日欠席している野口委員から意見が届いているとのこと。事務局から説明をお願いしたい。

## ○事務局

- ・野口委員より書面にて3点の意見をいただいている。
- ・1つ目は、文章で重複する部分を避けるなどわかりやすくすべき、また、市民向け「概要版」を作成すべきということ。事務局として「概要版」は作成予定であり、今後の市民向けの説明の際は、基本的にこの「概要版」をもって対応していく予定。
- ・2つ目は、「現状と課題」の記載を区分し、わかりやすくすべきということ。記載方法については工夫して対応していきたい。
- ・3つ目は基本構想に記載の行政の役割について、「市民・民間などができないことを補完する」から「主体的に行う」に修正すべきということ。これに関しては総合計画全体を貫く考え方として、補完性原理の説明をしており、原案どおりにしたいと考えている。

## ●関谷会長

- ・3点目に関して補足する。まちづくりにおいては、決定や自治などを出来る限り小さい単位で行い、出来ないことのみをより大きな単位の団体で補完していく補完性原理という概念が必要とされている。まず行政ありきのまちづくりでは、いくらカネがあっても足りなくなるといことである。ただし行政の姿勢に主体性が不要ということではない。

## (5) 閉会

- ・次回の第4回審議会は11月27日（火）に保健福祉センターで、基本計画のコミュニティ・行財政運営部分を議題として開催することを確認。

以 上